



2025年9月30日

各位

株式会社 北九州銀行

楽天カード株式会社との「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約の締結について

北九州銀行（頭取 嘉藤 晃玉）は、楽天カード株式会社（代表取締役社長 中村 晃一）と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約を締結し実行いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスとは、お客さまの企業活動が社会・環境・経済にもたらすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に特定・評価し、お客さまの企業活動を通じたポジティブな影響の創出・継続、ネガティブな影響の抑制・緩和の支援を目的とする融資商品となります。

当行は、地域金融機関としてSDGs/ESGへの取組を強化し、様々な事業活動を通じて、多様な課題の解決に取組、地域の価値向上を実践していくことにより、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

記

1. 企業概要

企 業 名	楽天カード株式会社
所 在 地	東京都港区青山二丁目6番21号 楽天クリムゾンハウス青山
代 表 者	中村 晃一
業 種	クレジットカード、カードローン、信用保証業務 他
サステナビリティ向上に向けた取組み等	当社は、親会社である楽天グループ株式会社のもと、楽天グループにおけるFinTech事業を担う中核企業として、主にクレジットカード事業を通じて、顧客に安心・安全で満足度の高い金融サービスを提供している。 楽天グループの定める「企業理念・MISSION・VISION」に基づき、革新的な金融サービスを通じて、社会環境の変化や多様なニーズに応え、サービスや機能をさらに充実させることで、日々の暮らしをより快適で豊かなものにすることを目指し、各事業を展開しながら、次のようなサステナビリティ活動を行っております。 【社会面での活動】 安心・安全で利便性の高いサービスの提供、責任のある金融サービスの提供、社会への貢献、従業員の健康・安全とウェルネス、従業員の成長支援、ダイバーシティの推進、働きやすい職場環境の提供 【経済面での活動】 消費活動の活性化と経済の持続的成長 【環境面での活動】 気候変動への取り組み、紙使用量の削減、電力使用量の削減

2. ローン概要

契 約 日	2025年9月30日
融 資 金 額	30億円
期 間	5年

3. 目標とKPI

ポジティブインパクトの創出・継続、ネガティブインパクトの抑制・緩和の状況を測定・管理できるように以下のKPIを設定しております。

No.	コア・インパクト	目標・KPI	KPI達成に向けた 具体的な取組	インパクトの種類 関連するSDGs
1	安心・安全な サービス提供	【ショッピング取扱高】 ・2030年度までにショッピング取扱高30兆円を目指す 〈現状〉 ・2024年度におけるショッピング取扱高24兆円	・クレジットカード発行に加えて、電子マネーやスマートフォン決済と連携し、お客様に安心・安全な金融サービスをお届けしていく。 ・クレジットカードをはじめ、電子マネー、コード決済等、多様なキャッシュレスサービスを展開していく。 ・楽天ペイアプリと楽天ポイントカードアプリの統合等、フィンテックサービスの機能連携を進めていく。	【社会面】 ・「金融」におけるPIの創出・継続 【経済面】 ・「零細・中小企業の繁栄」におけるPIの創出・継続 
2	共に成長できる 職場環境の実現	【男性社員の育児休暇取得率】 ・2030年度までに男性社員の育児休暇取得率85%を目指す 〈現状〉 ・2024年度における男性社員の育児休暇取得率67%	・育児取得経験のある男性社員の経験談を社内に発信する。 ・日常対話や1on1面談で希望する育児取得の方法等を確認する。 ・男性育休に関する社内教育の実施。	【社会面】 ・「健康及び安全性」「ジェンダー平等」におけるNIの抑制・緩和  
3	カーボン ニュートラルな 社会の実現	【GHG 排出量】 ・事業活動における温室効果ガス排出量（注1）実質ゼロ（注2）を維持していく 〈現状〉 ・事業活動における温室効果ガス排出量（注1）実質ゼロ（注2） 【再生可能エネルギー利用率】 ・事業活動で利用する電力における再生可能エネルギー100%（注3）を維持していく 〈現状〉 ・事業活動で利用する電力における再生可能エネルギー100%（注3）	・省エネルギー化・再生可能エネルギーの利用をさらに進め、そのうえで削減しきれない温室効果ガス発生量については、削減活動に投資するカーボン・オフセットを実施。 ・カード申し込みの100%電子化、カード利用明細の電子化推進、WEB会議の積極的な活用、離席・未使用時などのパソコンスリープ・シャットダウンにより電気使用量を削減。 ・サーバー処理など事業運営で使う電力はFIT非化石証書利用も含めて再生可能エネルギー100%にする。	【環境面】 ・「気候の安定性」におけるNIの抑制・緩和  

- (注 1) 温室効果ガス (Greenhouse Gas : GHG) の排出量を算定・報告する際の国際的な基準である「GHG プロトコル」に沿って算出した、Scope1 排出量 (自らによる温室効果ガスの直接排出量) と Scope2 排出量 (他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出量) の合計。
- (注 2) 温室効果ガス排出量削減に向け、省エネルギー化・再生可能エネルギー導入に取り組み、そのうえで削減しきれない温室効果ガス発生量については、削減活動に投資するカーボン・オフセットを実施し相殺。
- (注 3) 電力の再エネ属性を証明する「FIT 非化石証書」利用も含めた、再生可能エネルギー100%達成。

4. 山口フィナンシャルグループのマテリアリティ

山口フィナンシャルグループは、持続可能な社会の実現に貢献していくために、「グループサステナビリティ方針」を策定し、この方針に基づき、重点的に取り組むべき E S G 課題である「マテリアリティ」を特定しております。本件は、12 のマテリアリティの中で①～④「地域社会・経済活性化への取り組み」、⑤～⑦「環境保全への取り組み」の実現に資する取り組みです。



以 上

【本件に関するお問い合わせ先】
 北九州銀行事業性評価部
 担当：新田 TEL：093-513-5393